

## 史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

(第25期・第5回)

### 議事要旨

日 時：令和4年(2022)月25日(金)17:40~19:00

会 場：オンライン (Zoom ミーティングを利用)

出席者：石居人也、飯島渉、大橋幸泰、奥村弘、長志珠絵、倉員正江、栗田禎子、久留島典子、佐野正博、芳賀満、柳原敏昭、若尾政希(以上、12名)

#### <議 題>

##### (1) 前回議事要旨の確認

前回議事要旨を確認した。

##### (2) 本日の資料保存利用問題シンポジウムについて

今回の分科会は、日本歴史学協会／日本学術会議史学委員会主催・第27回資料保存利用問題シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流」に引き続いて開催された。シンポジウムを受けて、次のような意見が出された。

認証アーキビスト制度が発足したことによりアーキビストを取り巻く状況が大きく変わったことが認識できた。アーキビストが独立した監察機能を有すべきことを強調した方がよい。公文書等のデジタル化への対応が重要である。アーキビストには市民と結びついた専門性が必要である。アーキビスト教育・養成に取り組み始めた大学間での情報交換・交流が必要である。

こうした意見も踏まえて本分科会として今期中に、「公文書館法」第4条第2項附則の廃止を主眼とした意思を表出する準備を行うこととした。

##### (3) 日本学術会議資料の保存・管理と公開に関して

今回は議論を行わなかった。

##### (4) 被災史料の救済・保存をめぐって

種々議論の上、今期は意思の表出を見送ることとした。

##### (5) COVID-19 パンデミックをめぐるアーカイブズの構築のために

標記アーカイブズの制度設計について種々議論した。震災アーカイブズが参考になる、保健所文書の保全に留意すべきである、アメリカ議会図書館との連

携が考えられる等の意見が出された。結果、分科会として今期中に意思を表出する方向で準備を進めることとなった。

(6)その他

特になし。